

# 大人の遊びと仕事

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 柳沢 直

## ●働くことの意味

突然ですが、将来日本の労働人口の49%がロボットや人工知能で代替可能になるという研究結果があるそうです。もっと言えば西暦2045年には人工知能がシンギュラリティ(技術的特異点)を迎え、知的にも人間の能力を凌駕する時代がやってくると言われています。そうなる则将来的には人間が働かなくてもよくなる時代がやってくるかもしれません。しかしそれは本当によいことなのでしょうか？

## ●遊び仕事

このあたりを考えるのに参考になる「遊び仕事」という概念があります。「仕事」が経済的価値を生み出す行為で、「遊び」が精神的充足をもたらす行為だとすれば、「遊び仕事」はその中間ということになります。環境民俗学では「マイナー



写真1 ヘボに目印の綿をつける

## ●ヘボ取り

たとえば県内などで見られる「ヘボ取り」もそのひとつです。簡単に言うと野外に刺した棒に餌をつけ、やってきたヘボ(クロスズメバチまたはシダクロス

サブスタンス)とも言います。自然の中で身体を使って行うもので、メジャーな生業活動ではないものの、脈々と受け継がれてきて、さらにささやかではあるが経済的な価値を生み出す行為を指します。

ズメバチ)に目印をつけ(写真1)、巣まで追いかけて、見つけた巣を掘り取る(写真2)という遊びです。巣の中の幼虫はおいしくいただけます。

その道何十年のベテランの方は、最初に飛んでいった方角と、再び戻ってくるまでの時間で大体の位置を把握してしまっています。ヘボの行動を読むには自然を熟知していなければなりません。なかなか奥の深い遊びです。私も一度体験したことがあります。ヘボを追いかけて森の中を駆け回るのはかなりの重労働でした。しかし巣を見つけたときの喜びはやってみないとわからない充実感です。

これを「仕事」にしてしまうと、お金のために「コスト」「収益」「ノルマ」などイヤな言葉とつきあわなければいけません。「遊び」であるが故に失敗しても時間がかかっても和気あいあいと楽し

## ●持続可能な社会に向けて

現代では生きていくための糧を直接自然環境から得ることが稀になり、労働とはすなわち「単にお金を稼ぐこと」になっている場合も多いのではないのでしょうか。人間が感じる安心感の根本には、自分で糧を自然から獲得できた、という感覚があると思います。それは次の収穫のために自分がお世話になっている自然の状態を気にかけるということにもつながります。持続可能な社会の実現に向けて、この感覚こそが大

事になってくるのではないのでしょうか。



写真2 掘り出した巣